

科目ナンバリング		G-AAA03 83119 SJ31									
授業科目名 <英訳>		平和共生論の基礎 Theory of Peace and Coexistence				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 中溝 和弥			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本演習においては、平和共生論の基礎を学ぶことを目的とする。政治学のディシプリンを中心的に学びながら、各地域への適用可能性を検証する。											
【到達目標】											
平和共生論の理論的な分析枠組みを習得する。その上で、これらの分析枠組みを自らが専門とする地域に適用し、平和共生を実現するための条件を考察する。											
【授業計画と内容】											
本演習で扱うテーマは、次の通りである。なお、受講生と相談し、授業内容を変更する場合がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．紛争の形態（2回） 2．国家形成 3．ナショナリズム 4．政治体制論 5．民主化論 6．民主主義論（2回） 7．暴力的紛争 8．日常型の抵抗 9．宗教紛争（2回） 10．平和共生の制度化（2回） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．平常点評価（課題、授業への参加状況、授業における発言等）：70% 2．期末レポート：30% <p>の構成とする。</p>											
----- 平和共生論の基礎(2)へ続く -----											

平和共生論の基礎(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講読文献については、自分の担当回だけでなく、必ず予習するようにしてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーの時間は、特に定めません。面接希望者は、随時連絡を取ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53113 LB31									
授業科目名 <英訳>		持続型生存基盤研究の方法 An Interdisciplinary Approach to Sustainable Humansphere				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 河野 泰之			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
In this class we will mainly use review papers written in English to get an understanding of the basic ideas and concepts useful for any approach to the study of sustainable humanspheres, based on natural sciences such as agricultural science and ecology, and informatics.											
[到達目標]											
To understand the basic theories related to sustainable humansphere studies											
[授業計画と内容]											
The following topics will be covered, with two to three weeks devoted to each. However, depending on students' level of understanding, certain changes might be made. If students require it, lectures may be delivered in English.											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hydrological cycles and use and management of water resources (1st to 2nd week) 2. Mechanisms of change in land use (3rd to 5th week) 3. Complexity and management of ecosystems (6th to 7th week) 4. Regime shifts in ecosystems (8th to 10th week) 5. Adaptive Management (11th to 12th week) 6. Human and social modeling (13th to 15th week) 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
Evaluation will be made on the strength of attendance and degree of positive participation in class.											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Will be indicated in class.											
(その他(オフィスアワー等))											
The instructor hopes for active class participation and expression of opinions. There are no fixed office hours, but students who want to discuss issues directly with the instructor outside class hours are invited to email him at kono@cseas.kyoto-u.ac.jp.											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 83115 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域研究・文理融合論 Non-Modern Approaches in Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 藤田 幸一			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>本講義のねらいは2点ある。講義の前半では、言うは易く行うは難いのが常である文理融合研究を取り上げる。具体的事例として、1つはインド・バングラデシュの地下水灌漑とエネルギー、食料生産のネクサス分析、もう1つはタイ、ミャンマー、インドの天然ゴム産業における生産、加工、流通の全過程についての、技術的、制度的、社会経済学的総合分析を取り上げる。講義の後半では、フィールドワークの過程で必要となってくる農産物の生産費・所得分析を取り上げ、さらにはそれを含む農村世帯調査法を習得する。生産費分析はそれ自体、非常に難しい理論的課題を含んでいるが、それだけに、それが真に理解できたなら、その背後に隠れている技術、制度、社会経済の間の複雑な相互関連性が理解できたことになる。本講義では、アジア各地での具体的な世帯調査法の比較検討を通じて、東アジア、東南アジア、南アジアの地域性の一端が自然に理解できるよう、配慮する。</p>											
【到達目標】											
<p>文理融合研究のキーワードは生態環境、技術、経済、社会、制度、政策等であり、それらの要素のディシプリンに基づく深い分析の上に、それらを統一的視点から統合することが不可欠で、実際のところ、一朝一夕に体得できるものではない。複数のディシプリンに基づく鋭い分析と、それとは異質な総合的理解が、両方、必要となってくるからだ。本講義は、具体的事例を通じて、どのような分析とその統合が必要かを学ぶ場を提供する。また地域研究では、以上のような文理融合研究を通じて到達した地域像を比較検討し、地域の個性の把握手法を学ぶ。複数の地域の個性の違いを把握することが、地域個性把握の1つの重要な方法であることを学ぶ。農産物生産費論と農村調査法の習得は、そのための1つの道具である。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．はじめに：講義のねらいと予定 2．インド・バングラデシュの生態環境と農業：ヒンドスタン平原に焦点を当てて 3．インド・バングラデシュの地下水灌漑の拡大と灌漑水の市場取引 4．インド・バングラデシュの電力政策と地下水灌漑、食料生産 5．インド・マハーラーシュトラ州の流域管理プロジェクトと部族民社会 6．天然ゴム産業：生態環境、技術とその歴史 7．天然ゴム産業振興のための制度と政策 8．タイの天然ゴム産業 9．ミャンマー、インドの天然ゴム産業 10．農村調査法 11．農村調査法 12．農産物生産費論：投入財（畜力、農業機械を含む） 13．農産物生産費論：土地、労働、金融 14．農村世帯調査実習 15．農村世帯調査実習 											
----- 地域研究・文理融合論 (2)へ続く -----											

地域研究・文理融合論 (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の合間に行う小テスト、講義（討論）への参加具合などを総合して評点する

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

特になし。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー：随時（ただし、アポ必要）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83116 LE31									
授業科目名 <英訳>		持続型生存基盤と環境 Sustainable Humanosphere and Environment				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 D'SOUZA, Rohan Ignatious			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	英語
【授業の概要・目的】											
Debating Future-Natures: a study of essays on Climate Change, Global Warming and Anthropocene Politics. This course will discuss some of the main essays and writings that have set the tone and context for our understanding of Climate Change, Global Warming and Anthropocene politics as linked worlds involving science, politics and meanings.											
【到達目標】											
TBA											
【授業計画と内容】											
Main Readings: 1) Libby Robin, Sverker Sorlin and Paul Warde (ed.), The Future of Nature, Yale University Press, 2013. 2) Bill McKibben (ed.), The Global Warming Reader, OR Books, 2011.											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
TBA											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
TBA											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 53118 LJ31									
授業科目名 <英訳>		中東の平和と戦争 Peace and War in the Middle East				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 佐藤 麻理絵			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>20～21世紀の中東・北アフリカ地域における平和と戦争、紛争や紛争解決、和平プロセス等について、理論的な考察を加えるとともに、主要な事例について学びます。</p> <p>また、歴史的背景として、イスラーム史における「ジハード」についても学びます。</p> <p>難民問題については、今日の国際社会における「難民」の起源が中東にあること、また、現在多くの難民が中東で生まれていることなどを考慮して、一つの大きな焦点とします。</p>											
[到達目標]											
<p>中東地域研究の専門家として、現代の中東・北アフリカの平和と戦争について、歴史と現代を総合する地域認識を獲得し、主要な事例について基本知識を学び、また新たに遭遇した事例についても自ら考察できるような視座を身につけることを目標とします。</p> <p>イスラーム世界の国際語としてのアラビア語を用いて、専門用語も学びます。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>講義を中心として、一部でゼミ方式で発表と討議をおこないます（組み合わせ方は、出席者の人数によって調整します）。</p> <p>講義では、以下について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム国家の成立とジハード ・イスラーム国際法（スィヤル） ・近代的な国際システムと地域紛争 ・両世界大戦後の「平和」に埋め込まれた紛争 ・中東戦争：第1～4次 ・中東和平プロセス ・レバノン内戦とレバノン戦争 ・イラン・イラク戦争 ・湾岸戦争とイラク戦争 ・武装闘争・テロと低強度紛争 ・中東の難民問題 <p>ゼミ発表および期末課題は、各自の研究テーマに合わせた「知的インフラ構築」の課題（主題年表の制作など）に主体的に取り組んでいただきます。</p>											
[履修要件]											
<p>国際関係学、中東政治について既修でない場合は、同じ後期に提供されている「現代中東・北アフリカ地域論」を並行して履修することが望ましいです（必須ではありません）。</p> <p>アラビア語初級（前期）を履修済みか、それ以上のアラビア語能力を有すること。</p>											
----- 中東の平和と戦争 (2)へ続く -----											

中東の平和と戦争 (2)

[成績評価の方法・観点]

通常点および課題評価

[教科書]

小杉 泰 『9・11以後のイスラーム政治』（岩波書店）

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

他の参考文献・資料は、必要に応じて、授業中に紹介または配布します。

（関連URL）

<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/>((イスラーム地域研究センター))

[授業外学修（予習・復習）等]

中東は現在でも紛争頻発地域であり、戦争や内乱も多発しています。また、この地域を理解するためには、歴史も十分に踏まえないといけません。学ぶ事例が多いので、しっかりと資料を読み、予習・復習をしてください。

（その他（オフィスアワー等））

「熱情」をもって履修してください。熱気あふれるクラスで、先端的な知見を身につけましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53218 LJ31									
授業科目名 <英訳>		イスラーム世界論研究Ⅰ The Study of the Islamic World I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授		東長 靖 長岡 慎介	
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
本講義は、イスラーム世界研究のディシプリンの基礎としてのイスラーム学について、その基礎を修得するとともに、基本問題についての表現・発信能力を身につける。各テーマに関して、基本的な問題を論じると共に、学界および研究の現状を踏まえた論議は行うが、大学院の授業であり、入門的事項は扱わない。											
【到達目標】											
イスラーム思想の基礎的な問題について、正確に知り、理解することを目標とする。イスラーム学はアラビア語を根幹として作り上げられてきた学問なので、概念・術語をアラビア語でどう表現するかはとくに重要である。											
【授業計画と内容】											
イスラーム学の主要なテーマについて、(a) 講義を行う。必要に応じて、(b) ゼミ、(c) 講評会を行う。											
以下のようなテーマを扱う。文献記入法、ユダヤ教、キリスト教、クルアーン、イスラーム神学、シーア派、スーフィズム、哲学、その他。											
(a)講義は、参加（出席、質問）を主とする。事前にリーディングが指定されていないときは、特に準備は必要ない。(b)ゼミは、指定されたテキストについて、全員が発表を行う。レジュメまたは発表原稿を必ず用意すること。一人あたりの持ち時間は7分程度。(c)講評会は、指定された原稿を書いたものを持ち寄り、講評を受ける。書かれた原稿を読み上げる以外に、各自の持ち時間はない。なお、言うまでもないが、他人の書いたものを丸写ししたり、どこを引用したか分からないような形で用いることは「剽窃」となる。正規のルールに基づく「引用」は可。											
【履修要件】											
授業開始以前に、東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社（世界史リブレット15）、小杉泰『イスラームとは何か その宗教・社会・文化』講談社（講談社現代新書）を必ず読了しておくこと。											
【成績評価の方法・観点】											
以下の4点を総合的に判断する。(1) 講義への参加（出席、質問、討論）。(2) ゼミでのテキスト講読、発表。(3) 講評会での「原稿」提出。(4) 文献リストの作成（イスラーム学＋自己テーマ）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- イスラーム世界論研究Ⅰ (2)へ続く -----											

イスラーム世界論研究Ⅰ (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

前回の講義で指示された課題がある場合は、それをプリントアウトしたものを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53219 LJ31									
授業科目名 <英訳>		イスラーム世界論研究ⅠⅡ The Study of the Islamic World II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授		長岡 慎介 東長 靖	
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
イスラーム世界研究のディシプリンの基礎としてのイスラーム学について、その基礎を修得するとともに、基本問題についての表現・発信能力を身につけることをめざします。各テーマに関して、基本的な問題を論じると共に、学界および研究の現状を踏まえた論議をおこないます。											
【到達目標】											
イスラーム研究、イスラーム世界研究、イスラーム地域研究、中東地域研究などの専門家としての「イスラーム」認識方法を獲得し、学術的な基礎を身につけ、また必要な知識を自分で探索できるようになることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
イスラーム学の以下の3つのテーマについて、(a) 講義、(b) ゼミ、(c) 講評会を行います。 初期イスラーム、イスラーム法学、イスラーム復興											
(a)講義は、参加（出席、質問）を主とする。事前にリーディングが指定されていないときは、特に準備は必要ない。											
(b)ゼミは、指定されたテキストについて、全員が発表を行う。レジュメまたは発表原稿を必ず用意すること。一人あたりの持ち時間は7分程度。											
(c)講評会は、指定された原稿を書いたものを持ち寄り、講評を受ける。書かれた原稿を読み上げる以外に、各自の持ち時間はない。なお、言うまでもないが、他人の書いたものを丸写ししたり、どこを引用したか分からないような形で用いることは「剽窃」となる。正規のルールに基づく「引用」は可。講評を踏まえて、清書原稿を再提出する。											
【履修要件】											
この講義は大学院開講科目ですので、イスラーム全般についての基礎的・一般的解説は行いません。基礎的・一般的解説を希望する学生は、学部向け全学共通科目「イスラーム学の基礎」を受講してください。											
また、受講者は、10月末までに初回授業で提示される基本準備文献のうち2冊を読み、読書レポート（それぞれA4×2頁以上）を執筆し提出してください。（成績には加味されませんが、この課題の提出が履修自体の要件になります）											
【成績評価の方法・観点】											
以下の4項目を足し合わせた形（それぞれ20点ずつ）で成績を出します。											
(1) 出席点（遅刻はカウントしません）											
(2) 講義への貢献度（質問、討論）											
(3) ゼミでの発表パフォーマンス											
(4) 講評会およびそれを踏まえて提出された清書原稿のパフォーマンス											
(5) 期末課題											
----- イスラーム世界論研究ⅠⅡ(2)へ続く -----											

イスラーム世界論研究ⅠⅠ(2)

[教科書]

大塚和夫ほか編 『岩波イスラーム辞典』（岩波書店）

小杉泰、林佳世子、東長靖編 『イスラーム世界研究マニュアル』（名古屋大学出版会）

『岩波イスラーム辞典』は毎回の授業に持参すること（CD-ROM版でも可）。『イスラーム世界研究マニュアル』は(b)ゼミのレジユメ作成のための必携書である。

[参考書等]

（参考書）

小杉泰 『9・11以後のイスラーム政治』（岩波書店）

小杉泰 『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）

小杉泰 『現代イスラーム世界論』（名古屋大学出版会）

小杉泰 『イスラーム文明と国家の形成』（京都大学学術出版会）

末近浩太 『イスラーム主義 もう一つの近代を構想する』（岩波新書）

小杉泰、長岡慎介 『イスラーム銀行 金融と国際経済』

[授業外学修（予習・復習）等]

本講義は、イスラーム世界論講座のコア科目です。大量の課題を出しますので、講義に向けて入念な予習と準備をしてきてください。

（その他（オフィスアワー等））

受講希望者は必ず10月の初回授業に出席できるように、夏のフィールドワークの計画を立てるようにしてください。（途中参加による成績面での救済措置・フォローアップは行いません）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83220 LJ31									
授業科目名 <英訳>		スーフィズム・タリーカ論III Sufism and Tariqa StudiesIII				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。											
【到達目標】											
アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、これらの資料を丹念に読み込む訓練を行う。毎回、可能な限りの分量を読み、次回はその続きを読んでいく。</p> <p>これまでに本講義で取り上げてきた主な書目は以下の通り。</p> <p>クシャイリー『スーフィー派の言表とその意味の書』（2010）：用語集 ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッバース・アフマド・ティジャーニー」（2010）：列伝 カーシャーニー『スーフィー用語集』（2011）：用語集 ナブルスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』（2011）：地理書 ムハンマド・アフマド・クルディー『幽玄の熟知の扱いについての心の照射の書』（2012）：理論書（修行論） ガザリー『宗教諸学の再興』（2013）：理論書（代表的なスーフィズム理論書） アブドゥルカーヒル・スフラワルディー『修行者たちの作法』（2013）：理論書（スフラワルディー教団の修行規則を書いたもの。神学との整合性を中心に。） ズィリクリー『人名録』およびカッハーラ『著述家辞典』ほか（2014）：人名辞典 タシュキョプリューザーデ『赤いアネモネ』（2015）：ウラマー・スーフィー列伝 ボスネヴィー『叡智の台座注釈』（2015）：写本 サヌスィー『40のタリーカを支える泉』（2016）：修行法 イブン・アラビー『欲望の解釈者』（2016）：アラブ詩 イブン・ザイヤート『スーフィズムの徒へのまなざし』（2017）：聖者伝（マグリブ） アフマド・ザルーク『スーフィズムの基礎』（2017）：理論書（マグリブ）</p> <p>1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。</p>											
【履修要件】											
初級アラビア語を修得していること。											
----- スーフィズム・タリーカ論III (2)へ続く -----											

スーフィズム・タリーカ論Ⅲ (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点によって評価する。

[教科書]

授業中に指示する

テキストは当方で用意し、教室で配布する。

[参考書等]

(参考書)

東長靖 『イスラームとスーフィズム』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0721-4

ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』(創元社) ISBN:978-4-422-21212-8 豊富な図版が特徴。東長靖監修。

東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』(山川出版社) ISBN:978-4-634-47475-8 前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。

山内昌之・大塚和夫編 『イスラームを学ぶ人のために』(世界思想社)(I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。)

その他、教室で指示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。辞書・参考図書を十分に活用すること。

(その他(オフィスアワー等))

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83221 LJ31									
授業科目名 <英訳>		スーフィズム・タリーカ論IV Sufism and Tariqa StudiesIV				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。											
【到達目標】											
アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、これらの資料を丹念に読み込む訓練を行う。毎回、可能な限りの分量を読み、次回はその続きを読んでいく。</p> <p>これまでに本講義で取り上げてきた主な書目は以下の通り。</p> <p>クシャイリー『スーフィー派の言表とその意味の書』（2010）：用語集 ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッバース・アフマド・ティジャーニー」（2010）：列伝 カーシャーニー『スーフィー用語集』（2011）：用語集 ナールスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』（2011）：地理書 ムハンマド・アフマド・クルディー『幽玄の熟知の扱いについての心の照射の書』（2012）：理論書（修行論） ガザリー『宗教諸学の再興』（2013）：理論書（代表的なスーフィズム理論書） アブドゥルカーヒル・スフラワルディー『修行者たちの作法』（2013）：理論書（スフラワルディー教団の修行規則を書いたもの。神学との整合性を中心に。） ズリクリー『人名録』およびカッハーラ『著述家辞典』ほか（2014）：人名辞典 タシュキョプリュザーデ『赤いアネモネ』（2015）：ウラマー・スーフィー列伝 ポスネヴィー『叡智の台座注釈』（2015）：写本 サヌーシー『40のタリーカを支える泉』（2016）：修行法 イブン・アラビー『欲望の解釈者』（2016）：アラブ詩 イブン・ザヤート『スーフィズムの徒へのまなざし』（2017）：聖者伝（マグリブ） アフマド・ザッルーク『スーフィズムの基礎』（2017）：理論書（マグリブ）</p> <p>1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。</p>											
【履修要件】											
初級アラビア語を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点によって評価する。											
----- スーフィズム・タリーカ論IV (2)へ続く -----											

スーフィズム・タリーカ論Ⅳ (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

東長靖 『イスラームとスーフィズム』 (名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0721-4

ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』 (創元社) ISBN:978-4-422-21212-8 豊富な図版が特徴。東長靖監修。

東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』 (山川出版社) ISBN:978-4-634-47475-8 前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。

山内昌之・大塚和夫編 『イスラームを学ぶ人のために』 (世界思想社) (I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。)

その他、教室で指示する。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。辞書・参考図書を十分に活用すること。

(その他 (オフィスアワー等))

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83215 LJ31									
授業科目名 <英訳>		オスマン朝スーフィズム論ⅠⅡ The Study of Ottoman Sufism II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 アジア・アフリカ地域研究研究科 客員准教授 IDIRIS DANISMAZ			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
オスマン朝のイスラーム思想はその重要性にもかかわらず、いまだ十分に研究されているとは言えない。本講義は、そのなかでも重要なスーフィズムに焦点を合わせる。オスマン朝の思想書は、アラビア語、ペルシア語、オスマン・トルコ語で書かれるが、本講義ではこの内、オスマン・トルコ語のスーフィズム文献に焦点を合わせ、講読を行う。											
【到達目標】											
オスマン・トルコ語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
オスマン・トルコ語で書かれたスーフィズム文献の講読を行う。また、必要に応じて、オスマン朝のスーフィズムやイスラーム思想についての講義を行う。											
【履修要件】											
現代トルコ語を習得済みで、かつアラビア語・ペルシア語の少なくともひとつを習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点によって評価する。											
【教科書】											
テキストはこちらで用意する。何を読むかは、受講生と相談する。											
【参考書等】											
(参考書) 東長靖編 『オスマン朝思想文化研究』(イスラーム地域研究センター) ISBN:非売品(オスマン朝の思想・文化のいくつかのジャンルについての解題と原典・翻訳)											
【授業外学修(予習・復習)等】											
講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 53209 LJ31									
授業科目名 <英訳>		イスラーム社会経済論 Islamic Society and Economics I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 長岡 慎介			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本講義は、イスラーム世界における経済・社会システムについて、その思想と理論・実践の現状、研究の最新動向を学びます。											
【到達目標】											
本講義で取り上げる文献の批判的講読を通じて、自らのイスラーム経済研究をよりブラッシュアップすることをめざします。											
【授業計画と内容】											
本講義は、以下の3つのモジュールに分けて進めます。 (1) イスラーム経済研究に資する経済学・経済史の研究文献（英語あるいは日本語）の講読 (2) イスラーム経済研究に関する研究文献（英語）の講読 (3) 受講者による自らの研究テーマに即した最新研究論文の紹介・報告											
【履修要件】											
この講義は大学院開講科目ですので、イスラーム経済についての基礎的・一般的解説は行いません。基礎的・一般的解説を希望する学生は、学部向け全学共通科目「イスラーム経済論」を受講してください。目安として、下記の文献で論じられていることは一通り学修済み（あるいは4月中に読了予定）であることを前提に授業を進めます。											
(1) イスラーム経済の実態に関する概説書 小杉泰・長岡慎介『イスラーム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010年。 長岡慎介『お金ってなんだろう？あなたと考えたいこれからの経済』平凡社、2017年。 長岡慎介『資本主義の未来と現代イスラーム経済（上・下）』詩想舎、2020年。 イスラームビジネス法研究会／西村あさひ法律事務所編『イスラーム圏ビジネスの法と実務』一般財団法人経済産業調査会、2014年。 濱田美紀・福田安志編『世界に広がるイスラーム金融 中東からアジア、ヨーロッパへ』アジア経済研究所、2011年。 加藤博『文明としてのイスラム』東京大学出版会、1995年。 吉田悦章『イスラム金融入門』東洋経済新報社、2007年。 Muhammad Ayub Understanding Islamic Finance. Wiley, 2007. Zamir Iqbal and Abbas Mirakhor An Introduction to Islamic Finance: Theory and Practice. Wiley, 2011.											
(2) イスラーム経済に関する基本的研究書 長岡慎介『現代イスラーム金融論』名古屋大学出版会、2011年。 El-Gamal, M. Islamic Finance: Law, Economics and Practice. Cambridge University Press, 2001. Muhammad Akram Khan, What is Wrong with Islamic Economics? Analysing the Present State and Future Agenda. Edward Elgar, 2014. Murat Cizakca Islamic Capitalism and Finance: Origins, Evolution and the Future. Edward Elgar, 2011.											
----- イスラーム社会経済論 (2)へ続く -----											

イスラーム社会経済論 (2)

また、上記の文献（プラス）を参考にしながら、現在の資本主義が抱える課題の1つを取り上げ、その課題の克服のために経済学（近代経済学あるいはその他の経済学）がどのような取り組みをしているのか、イスラーム経済（あるいはイスラーム経済研究）がその課題の克服のためにどのような貢献ができるかについて論じたショートエッセイ（A4、3枚以上）を5月最初の授業日に提出してください。（成績には加味されませんが、この課題の提出が履修自体の要件になります）

【成績評価の方法・観点】

授業で行う講読（報告）のパフォーマンスと議論への貢献度、出席状況によって評価します。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

講義に向けて入念な予習と準備をしてきてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53207 LJ31									
授業科目名 <英訳>		中央アジア地域研究論 Central Asian Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>旧ソ連中央アジア（ウズベキスタン、カザフスタン、クルグズ、タジキスタン、トルクメニスタン）はユーラシア大陸の中心部に位置し、ペルシア語／テュルク語とイスラームを歴史的な文化基盤としながらも、ロシア・ソ連文化の波を受け、社会主義とそのもとでの近代化を経験した興味深い地域である。</p> <p>この地域の現在を理解するための基本的視座を提供することを目的として、その近現代史を振り返る。</p>											
【到達目標】											
旧ソ連中央アジアの重層的な文化基層を理解し、ソ連解体以降生じた変容と新たな研究領域について概要を説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなテーマ設定のもとで、15回の授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．地域概念としての中央アジア、中央アジアへの視点（第1回） 2．帝政ロシアの中央アジア征服とその統治（第2～3回） 3．中央アジアとロシア革命（第4回） 4．ソ連体制下の近代化（第5～6回） 5．ペレストロイカと中央アジア、そしてソ連からの独立へ（第7回） 6．独立後のナショナリズムの諸相（第8～9回） 7．中央アジアのイスラーム（第10回） <p>第11～15回においては、受講者の関心に合わせて、中央アジア関連の研究書の講読や研究発表を行う。</p>											
【履修要件】											
中央アジア地域に関心があること、または中央アジアと比較対照しうる共通項のある地域に関心があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点および期末のレポート。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書） 小松久男他編 『中央ユーラシアを知る事典』（平凡社）（中央ユーラシアに関する読む事典）</p>											
----- 中央アジア地域研究論(2)へ続く -----											

中央アジア地域研究論(2)

宇山智彦編 『中央アジアを知るための60章』(明石書店)(中央アジア地域研究の入門書)
小松久男編 『中央ユーラシア史』(山川出版社)
帯谷知可他編 『朝倉世界地理講座 人間と大地の物語 5 中央アジア』(朝倉書店)(日本の中央ユーラシア地域研究の近年の成果)
岩崎一郎他編 『現代中央アジア論』(日本評論社)(絶版)
宇山智彦・岩崎一郎編 『現代中央アジア 政治・経済・社会』(日本評論社) ISBN:978-4-535-55826-7 (ソ連解体後の政治・経済・社会研究の基本的視座を示す最新版)
帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』(明石書店) ISBN:9784750346373 (ウズベキスタン地域研究の入門編)
その他、適宜授業で紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に参考文献等としてここにあげた文献、ならびに授業時に配布する参考文献リストにあげてある文献をできるだけ多く読むようにすること。

(その他(オフィスアワー等))

連絡はこちらへ obiya@cseas.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53217 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アジア・アフリカ・スーフィズム論 Asian and African Sufi Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 人文科学研究所 准教授 中西 竜也			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
イスラーム世界のほぼ全域にスーフィズムは広がっている。その諸相を、思想研究・歴史研究など複数のアプローチから分析する。											
【到達目標】											
アジア・アフリカ地域のスーフィズムについての広い知識を身につけることを目標とする。同時に相異なるディシプリンを用いて対象を考察する姿勢も身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね、次の順序で授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション（担当：全教員） 2．思想研究からみるスーフィズム：スーフィズムとは何か、修行論と靈魂論、人間論と宇宙論、歴史のなかのスーフィズム、現代に生きるスーフィズム 3．歴史研究からみるスーフィズム：中央アジアにおけるスーフィー教団（タリーカ）の興隆、クブラウィーヤ派の発展と衰退、ナクシュバンディーヤ派の拡大、ナクシュバンディーヤ派とイスラーム改革主義、中国のスーフィズム 4．その他のディシプリンからみるスーフィズム 5．受講生による発表と講評 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50パーセント）とレポート（50パーセント）による。											
【教科書】											
講義時にレジュメ等を配布する。											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』（山川出版社）ISBN:978-4-634-47475-8（前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。）</p> <p>ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』（創元社）ISBN:978-4-422-21212-8（豊富な写真が特徴。東長靖監修。）</p> <p>東長靖 『イスラームとスーフィズム』（名古屋大学出版会）ISBN:978-4-8158-0721-4（専門的な論集だが、第1部は本講義に対する視座として有効。）</p> <p>高橋圭 『スーフィー教団 - 民衆イスラームの伝統と再生』（山川出版社）ISBN:978-4-634-47476-5（日本語で読めるタリーカの唯一の概説書。現代エジプトに焦点を合わせる。）</p> <p>赤堀雅幸編 『民衆のイスラーム - スーフィー・聖者・精霊の世界』（山川出版社）ISBN:978-4-634-47452-9（聖者信仰に重点を置いている。）</p>											
----- アジア・アフリカ・スーフィズム論(2)へ続く -----											

アジア・アフリカ・スーフィズム論(2)

赤堀雅幸・東長靖・堀川徹編 『イスラームの神秘主義と聖者信仰』（東京大学出版会）ISBN:4-13-034187-1（聖者信仰、スーフィズム[タサウウフ]、タリーカ、サイド・シャリーフ論の4つのジャンルを取り上げ、概論と個別研究を組み合わせたもの。）

濱田正美 『中央アジアのイスラーム』（山川出版社）ISBN:978-4-634-34700-7（中央アジアにおけるイスラームおよびスーフィズムの諸相を解説）

中西竜也 『中華と対話するイスラーム 17-19世紀中国ムスリムの思想的営為』（京都大学学術出版会）ISBN:9784876982738（中国イスラームに関する専門的論集）

[授業外学修（予習・復習）等]

講義内でよく理解できなかった点については、参考図書などを用いて復習すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53301 LJ31									
授業科目名 <英訳>		南アジア地域論 South Asian Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
地域における出来事 / 現象を理解するには、人文・社会科学的な概念や理論を必要とする。この授業では、社会学・人類学を中心とし、それらの学説史を踏まえながら、基本的な概念と理論を論ずる。そして、それらの知識を、フィールドワークの過程や論文作成においてどのように活用するかについて議論する。											
【到達目標】											
社会学・人類学の基本的な概念と理論を理解し、それらを主体的・批判的に応用する能力をつける。 なお、本講義の内容は、後期開講する南アジア地域論IIIにつながるものであり、受講生は引き続き南アジア地域論IIIを受講することを推奨する。（なお、この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。）											
【授業計画と内容】											
授業内容は以下の通り。必要に応じて文献購読も行う。 なお、受講状況により変更することがある。											
1. イントロダクション 2. 個人と社会 デュルケム 『宗教生活の原初形態』 3. 個人と社会 デュルケム 『宗教生活の原初形態』 (2) 4. 個人と社会 ウェーバー 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 5. 個人と社会 マルクス 『資本論』 6. 文化と社会 文化相対主義 7. 構造機能主義 マリノフスキー 『西太平洋の遠洋航海者』 8. 構造主義 レヴィ=ストロース 『今日のトーテミズム』 9. 文化の解釈 ギアーツ 『文化の解釈学』 10. 社会と身体 フーコー 『監獄の誕生』 / 『性の歴史I知への意志』 11. 社会と身体 バトラー 『ジェンダー・トラブル』 12. 社会と身体 ブルデュー 『実践感覚』 13. アクターネットワーク理論 14. 現代的展開と諸問題 15. 現代的展開と諸問題											
【履修要件】											
特になし。											
----- 南アジア地域論 (2)へ続く -----											

南アジア地域論 (2)

[成績評価の方法・観点]

自らの研究関心との関わりで、どの程度講義内容を習得したかを評価する。
評価方法は、平常点および学期末レポート

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー： 随時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53302 LJ31									
授業科目名 <英訳>		南アジア地域論 South Asian Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
This course examines major sociological and anthropological studies of the South Asia and beyond, by taking into account the history of their theories. We will also discuss how to utilize this knowledge in the process of fieldwork and in the writing of the dissertation.											
[到達目標]											
Students will gain an understanding of the basic concepts and theories of sociology and anthropology, and an ability to apply theory to analyze sociocultural practices in South Asia. They will also be able to discuss the way anthropology has developed historically and been used to work on contemporary issues in South Asia.											
[授業計画と内容]											
1 . Introduction 2 . Foundations of Sociology 1) Modernity and the concept of society 3 . Foundations of Sociology 2) Religion 4 . Foundations of Sociology 3) Social Action and social change 5 . Foundations of Sociology 4) Economic transaction 6 . Social Functionalism and its Critiques 7 . Language, Culture and Structure 8 . Interpretive Anthropology 9 . Colonialism and Making of Anthropological Knowledge in South Asia 1 0 . Practice Theory 1 1 . After Culture? : Subjectivity and Body 1 2 . Feminist Anthropology and Gender in South Asia 1 3 . Anthropology of Development 1 4 . Diaspora Studies 1 5 . Anthropology of Science, Technology and Medicine (Contents may change, based on the nature of participants)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
Active participation and term paper.											
----- 南アジア地域論 (2)へ続く -----											

南アジア地域論 (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー： 随時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83308 LJ31									
授業科目名 <英訳>		南アジア文化論 Theories of Culture and South Asian Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
南アジア地域研究からは、他地域の研究にも影響を与える多くの文化理論が生まれた。もちろん、他地域の研究から生まれた文化理論も、南アジア地域研究に適用されている。本セミナーでは、地域研究に資する可能性のある様々な文化理論について検討する。											
【到達目標】											
地域研究に資する可能性のある様々な文化理論を理解し、また応用する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
授業は基本的に文献購読の形式ですすめる。 授業で扱う内容については、オリエンテーションの際に履修者からの希望を聞いて決定する。これまで扱った内容は以下の通り： 宗教と世俗、市民権とデモクラシー、紛争と暴力、先住民性、主体と主体化、身体論、サバルタニティ、価値の人類学理論、アクター・ネットワーク理論、フェティシズム論、感情と情動、記号論、											
【シラバス例】											
1．オリエンテーション											
2～4．宗教と世俗 タラル・アサド著『宗教の系譜』『世俗の形成』, Asis, Nandy. "An Anti-secularist Manifesto"など											
5～10．価値の人類学理論 デイヴィッド・グレーバー『価値の人類学理論に向けて』『負債論』など											
8～11．民主主義 バルタ・チャタジー『統治されるひとびとのデモクラシー』											
12～15．グローバリゼーション アルジュン・アパドゥライ『さまよえる近代』『グローバリゼーションと暴力』											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点によって評価する。											
----- 南アジア文化論 (2)へ続く -----											

南アジア文化論 (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、日/英(英語が多い)のリーディング課題が出されるので、履修者はこれを読んだうえでディスカッションのための質問や感想を用意してくること。また各回の担当者はリーディング課題の要約をレジюмеにしてもってくること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53310 LJ31									
授業科目名 <英訳>		ヒマラーヤ地域論 Himalayan Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎 非常勤講師 長岡 慶			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ヒマラーヤ地域への、主に社会・文化人類学的／民族誌的アプローチについて検討する。この授業を通して、人類学とその関連分野（地理学、社会学、政治学、宗教学等々）でどのような問題設定が行われており、現在から招来にかけてどのような問題設定と調査が可能かを探求する。											
【到達目標】											
ヒマラーヤに関する民族誌的研究における主な論点とアプローチについて主体的に検討する能力をつける。 (この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。)											
【授業計画と内容】											
ヒマラーヤ地域研究に関連する文献講読と議論を行う。用いる文献については、受講生と相談の上、決定する。これまでの講義でとりあげた文献には次のものが含まれる—川喜田二郎『ヒマラーヤの文化生態学』; James Fisher, <i>Himalayan Anthropology: The Indo-tibetan Interface</i> ; Sara Shneiderman, <i>Rituals of Ethnicity: Thangmi Identities Between Nepal and India</i> ; Lauren Leve, <i>The Buddhist Art of Living in Nepal: Ethical Practice and Religious Reform</i> ; Robert Desjarlais, <i>Subject to Death: Life and Loss in a Buddhist World</i> .											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒマラーヤ地域研究の概観と文献紹介 2. 文献1 講読 3. 文献1 講読 4. 文献1 講読 5. 文献2 講読 6. 文献2 講読 7. 文献3 講読 8. 文献3 講読 9. 文献4 講読 10. 文献4 講読 11. 文献5 講読 12. 文献6 講読 13. 文献6 講読 14. 総括議論 1 15. 総括議論 2 											
なお、受講状況により変更することがある。											
----- ヒマラーヤ地域論 (2)へ続く -----											

ヒマラヤ地域論 (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

自らの研究関心との関わりで、どの程度講義内容を習得したかを評価する。
評価方法は平常点

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指示する文献を読んだ上で参加する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83311 LJ31									
授業科目名 <英訳>		ネパール語原典講読 I Reading in Nepali I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ネパール語はネパールの国語であり、インドのシッキム州の公用語であることに加え、インドの他の州や、ブータン、ミャンマー等にも多くの話者がいる。近年では日本に在住するネパール語話者も急増している。またネパール語文学は19世紀以降、大きく発展した。ネパール語での新聞、雑誌、単行本等の出版活動も活発である。この授業はネパール語圏において、またはネパール語を用いて研究を行う学生を対象とし、ネパール語読解能力の向上を目的とする。											
【到達目標】											
研究に必要なネパール語読解能力を身につけ、論文作成の際にネパール語資料を用いることが可能になるようにする。											
【授業計画と内容】											
授業で読む文献は受講者の習熟度や研究関心を考慮しつつ、相談の上、決定する。毎回の授業では、受講者がそれぞれの担当箇所を音読し、その翻訳案を提示する。授業は15回行う。											
【履修要件】											
ネパール語の基礎的な運用能力。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
各授業の前に指定された範囲のテキストを読み理解してくる。予習には2、3時間はかかると考えられる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 83312 LJ31									
授業科目名 <英訳>		ネパール語原典講読 II Reading in Nepali II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ネパール語はネパールの国語であり、インドのシッキム州の公用語であることに加え、インドの他の州や、ブータン、ミャンマー等にも多くの話者がいる。近年では日本に在住するネパール語話者も急増している。またネパール語文学は19世紀以降、大きく発展した。ネパール語での新聞、雑誌、単行本等の出版活動も活発である。この授業はネパール語圏において、またはネパール語を用いて研究を行う学生を対象とし、ネパール語読解能力の向上を目的とする。											
【到達目標】											
研究に必要なネパール語読解能力を身につけ、論文作成の際にネパール語資料を用いることが可能になるようにする。											
【授業計画と内容】											
授業で読む文献は受講者の習熟度や研究関心を考慮しつつ、相談の上、決定する。毎回の授業では、受講者がそれぞれの担当箇所を音読し、その翻訳案を提示する。授業は15回行う。											
【履修要件】											
ネパール語の基礎的な運用能力。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
各授業の前に指定された範囲のテキストを読み理解してくる。予習には2、3時間はかかると考えられる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 83313 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アジア市民社会論 Civil Society in Asia				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 水澤 純人			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>市民社会概念の基礎と地域研究における応用の可能性を、南アジアを含めたアジア諸国の事例を通じて学ぶことを目的とする。扱うテーマは、市民社会概念の歴史的系譜、公共圏論、西欧における結社の興隆とその役割といった市民社会論の主要議題に加え、非西洋社会における概念の適用を巡る議論を中心とする。</p> <p>受講生は課題文献を事前に精読し、自らの対象地域や研究課題への応用を念頭において授業に臨むことが期待される。</p>											
【到達目標】											
<p>次の2点の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民社会の基本概念と、非西洋社会への適用をめぐる議論の概要 2. 受講生の研究対象国・地域における市民社会論の研究動向 											
【授業計画と内容】											
<p>各回は次のテーマを扱う。なお、講義の進みぐあいや受講生の関心に対応し、順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民社会論の概要と授業案内 2. 非西洋における市民社会論の課題 3. グラムシ的市民社会とヘゲモニー論 4. ハーバーマスの「公共圏」をめぐる議論 5. グローバル市民社会論 6. アジア・アフリカの市民社会論（1） ムスリム諸国における市民社会概念の適用を巡る議論を検討する。 7. アジア・アフリカの市民社会論（2） パルタ・チャタジーの「政治社会」の議論を検討する。 8. アジア・アフリカの市民社会論（3） シヴィリイティ（市民性）の概念を巡る議論を検討する。 9. 近代ヨーロッパにおける結社と民主主義 10. 宗教と市民社会 11. 暴力と市民社会 12. パキスタンの市民社会論 13. 受講生の研究対象国・地域に関する先行研究のレビュー（1） 課題として作成した文献リストをもとに議論を行う 14. 受講生の研究対象国・地域に関する先行研究のレビュー（2） 主要な先行研究に関して内容を要約して発表する。 15. 総括 											
----- アジア市民社会論 (2)へ続く -----											

アジア市民社会論 (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

受講生個々の研究関心を踏まえた、積極的な参加を評価する。達成度は平常点（7割）と発表（3割）を組み合わせる。なお、平常点は、授業への参加状況と適宜、課外課題文献への取り組みを含む。

【教科書】

授業中に指示ないし配布する。

【参考書等】

（参考書）

Sudipta Kaviraj and Sunil Khilnani 『Civil Society : History and Possibilities』 (Cambridge University Press, 2001) ISBN:9780521633444 (非西洋における市民社会概念の適用について、各地の事例をもとに包括的に論じている。)

シュテファン=ルートヴィヒ・ホフマン 『市民結社と民主主義 1750-1914』 (岩波書店, 2009) ISBN:9784000272049 (世界史的な視座から結社の興隆を考えるうえで示唆に富んでいる。)

マイケル・エドワーズ 『「市民社会」とは何か : 21世紀のより善い世界を求めて』 (麗澤大学出版会, 2008) ISBN:9784892055409 (市民社会論の概説書のなかでも、最も平易かつ現代的な意義の分かる内容となっている。)

【授業外学修（予習・復習）等】

指定した文献を熟読し、感想や質問を用意してくるのが望ましい。発表の担当に回った場合、内容を要約したレジュメを作成してくること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に定めない。メール（mizusawa@asafas.kyoto-u.ac.jp）で随時連絡を取ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53306 LJ31									
授業科目名 <英訳>		南アジア・イスラーム論 Islam in South Asia				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院言語文化研究科 山根 聡 教授			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>南アジアは世界で最も多いムスリム人口を抱え、イスラーム世界全体に対する政治的、思想的、社会的な影響力をもたらしてきた。本授業では、南アジアのムスリムの動態をさまざまな視点から考察し、イスラーム世界全体での南アジアの重要性について再検討したい。 (なお、この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。)</p>											
【到達目標】											
<p>現代イスラーム研究および南アジア研究において、南アジア・イスラーム論はその重要性を増しており、研究が盛んになりつつある。そこで、本講義を履修することで、南アジア・イスラームの歴史的経緯を概観し、先行研究に関する知識を把握したうえで、南アジアのイスラームがイスラーム世界および南アジアにいかなる意義を持っているかについて知ることができ、各自の研究テーマと重ね合わせて、問題意識を高めることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 - 3回 南アジアにおけるムスリムの歴史 4 - 6回 「インド・イスラーム文化」について 7 - 9回 ムスリムの近代化とイスラーム復興 10 - 12回 文学と宗教 13 - 15回 現代イスラーム世界における南アジア</p>											
【履修要件】											
<p>特別な予備知識は必要としない。ただ、それぞれが研究を進める地域と比較する視点を常に持ちながら受講していただきたい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>出席状況により評価する。特に、出席時の積極的な姿勢を評価したい。</p>											
【教科書】											
<p>授業中に指示する 逐次資料を配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
【授業外学修(予習・復習)等】											
<p>配布資料等に関して、逐次予習・復習をしていただきたい。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		G-AAA03 83316 LJ31									
授業科目名 <英訳>		南アジアの環境と文化 Environment and Culture in South Asia				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 客員准教授 伊東 さなえ			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>南アジア地域は世界最高峰のエベレストからインド洋地域まで含む多様な環境の中で、多様な文化を育んできた。一方で、近年では、大気汚染やゴミ問題、災害など、多くの環境問題が報じられるようになってきている。この授業では、環境を南アジアの現代的な諸相を理解する手がかりとし、文化人類学および民族誌的研究の観点からアプローチする。そのために、まず、南アジアにおける環境をめぐる論点をケガレや神霊などの観点から整理する。その上で、近代の文脈において環境がどのように捉えられ、論じられてきたのかについて事例や民族誌を参照しつつ探求する。</p>											
【到達目標】											
<p>南アジアの環境について文化の観点から理解を深める。 文化人類学および民族誌的研究手法を用いて問題関心にアプローチする手法を学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業内容は以下の通り。必要に応じて文献購読も行う。 ただし受講生の数や関心によって、授業の進め方や内容を変更する可能性がある。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.ケガレ論(1) 3.ケガレ論(2) 4.環境と神霊(1) ヒンドゥー世界 5.環境と神霊(2) ヒマラーヤ世界 6.環境と神霊(3) 儀礼と祭り 7.都市・村の空間構造からみる環境 8.植民地期南アジアにおける衛生化・公共・ナショナリズム 9.国民国家と環境管理 10.国際開発言説と環境問題 11.現代南アジアの環境をめぐる論点(1) 河川管理・森林管理 12.現代南アジアの環境をめぐる論点(2) ゴミと衛生 13.現代南アジアの環境をめぐる論点(3) 防災と災害対応 14.南アジアにおけるグローバル化と環境：場所・空間・ローカリティ 15.まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
----- 南アジアの環境と文化(2)へ続く -----											

南アジアの環境と文化(2)

[成績評価の方法・観点]

自らの研究関心との関わりで、どの程度講義内容を習得したかを評価する。
評価方法は、平常点（70%）および期末レポート（30%）。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する文献を読んだうえで参加する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細についてはKULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53802 SB31											
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				グローバル地域研究専攻全教員	
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などについて明らかにするとともに、グローバル地域研究の基礎的な問題群とアプローチの方法に関する演習をおこなう。													
【到達目標】													
グローバル地域研究の基礎的な問題群を理解し、様々なアプローチを主体的に検討する能力を身につける。													
【授業計画と内容】													
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ													
【履修要件】													
博士予備論文審査にまだ合格していない者。													
【成績評価の方法・観点】													
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。													
【教科書】													
授業中に指示する													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
指導教員と相談しておこなう。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA03 53803 SB31											
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				グローバル地域研究専攻全教員	
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などの分野に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。													
【到達目標】													
具体的な研究課題の構築とアプローチについて主体的に検討する能力を身につける。													
【授業計画と内容】													
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ													
【履修要件】													
博士予備論文審査にまだ合格していない者。													
【成績評価の方法・観点】													
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。													
【教科書】													
授業中に指示する													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
指導教員と相談して決める。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA03 73804 SB31											
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				グローバル地域研究専攻全教員	
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などの分野に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。													
【到達目標】													
博士論文作成に向けての研究課題の明確化とアプローチの精緻化。													
【授業計画と内容】													
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ													
【履修要件】													
博士予備論文の審査に合格した者。													
【成績評価の方法・観点】													
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。													
【教科書】													
授業中に指示する													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
指導教員と相談して決める。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA03 73805 SB31										
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies IV				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				グローバル地域研究専攻全教員
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語	
【授業の概要・目的】												
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などの分野に関する先端的な問題群と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究へ向けての評価や指導をおこなう。												
【到達目標】												
博士論文作成の進展と、創造的で自立的な研究能力の獲得。												
【授業計画と内容】												
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ												
【履修要件】												
博士予備論文の審査に合格した者。												
【成績評価の方法・観点】												
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。												
【教科書】												
授業中に指示する												
【参考書等】												
(参考書) 授業中に紹介する												
【授業外学修(予習・復習)等】												
指導教員と相談して決める。												
(その他(オフィスアワー等))												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		G-AAA03 63806 GB31									
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究論課題研究 Guided Research on Global Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
[到達目標]											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 73807 GB31									
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究論課題研究 Guided Research on Global Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 73808 GB31									
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究論課題研究 Guided Research on Global Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 53809 FJ31									
授業科目名 <英訳>		グローバル臨地演習 Global Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
[到達目標]											
フィールドワークに必要な基本的技法を身につける。											
[授業計画と内容]											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
[履修要件]											
1年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf											
[成績評価の方法・観点]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集、分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 63810 FB31									
授業科目名 <英訳>		グローバル臨地演習 Global Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
【到達目標】											
自らの研究テーマを発展させるための応用的なフィールドワーク手法を身につける。											
【授業計画と内容】											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
【履修要件】											
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf											
【成績評価の方法・観点】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 73811 FB31									
授業科目名 <英訳>		グローバル臨地演習 Global Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。											
[到達目標]											
フィールドワークで得られた自らの知見について、英語あるいは現地語でプレゼン・議論できるようになる。											
[授業計画と内容]											
学生は教員とともに研究発表や実践活動の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地でそれを行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
[履修要件]											
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、その Semester 内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf											
[成績評価の方法・観点]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集、分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											